

【奨励賞】

団体名	秋田県大館市下川沿地区合同委員会
活動の内容（概要）	下川沿中学校の全教育課程でのふるさとキャリア教育を中心に、下川沿の地域・学校を含めた開発計画と実行（DSプラン）として「地域貢献活動」を進めている。伝統文化の継承や近くの企業農場との連携、「全地域訪問」、「防災 do プログラム」など地域と双方向の連携活動を実践している。

受賞理由

- ・地域連携と追究型学習の意識が明確に共有され、年ごとに工夫を行いつつ、計画に沿った継続的な活動が成果を上げている。
- ・16 団体による連携・協働で進める「ふるさとキャリア教育」の発想がよい。下川沿地区の課題、特色に応じた「地域貢献活動」として、取組も多様であり高く評価する。特に、実践的な「ネギ祭り」の運営協力は、農業体験等活きたキャリア教育につながっている。
- ・地域ぐるみで就学前教育段階から義務教育終了までの子供たちのキャリア形成を支えている。
- ・大館市のふるさとキャリア教育プランに基づき、中学校を中心に広範囲での地域貢献活動をキャリア教育に結びつけている。防災教育や獅子踊り、農場との連携等それぞれの取組において、中学生が地域の人材として機能し、地元地域を意識しながら将来を見据えている。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

下川沿中学校、川口小学校、下川沿保育所、下川沿公民館、大館市教育委員会、大館市生涯学習課、大館市教育研究所

【行政や地域・社会、産業界等】

小・中学校 PTA、下川沿中学校同窓会、川口獅子踊り保存会、農業組合法人立花ファーム、株式会社東光グループ、地域町内会、大館消防署、大館警察署、ロータリークラブ

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成26年～ 【継続年数】4年

下川沿地区は下川沿中学校が中心となり、「地域貢献活動」を全校で行っている地域である。この地区には、平成29年で40年目を迎える歴史ある地区合同研修会があり、毎年実行委員会を立ち上げ開催されており、その中で少子高齢化と深刻な人口減少が話題となってきた。また、地区合同研修会は極めて形式的であり、分かりやすい名称で地域に実際に有効な活動を波及させる必要があった。

そこで、名称を「DSプラン（Dはデベロップメント、Sは下川沿を指す）」とし、下川沿の地域・学校を含めた開発計画と実行を合い言葉に、地区全体で共に様々な活動をしてきた。

さらに、中学校では、「基礎的・汎用的能力」を醸成させるため、全教育課程でキャリア教育を推進し、4年目となった。また、人生は選択の連続という「経済教育」。教科横断的な「英語 de 数学」も行っている。

「協力性」についての具体的な取組, 工夫している点など

「学校が先になって地域貢献をして、地域を活性化させる。元気を与える」ために「DSプラン」として、次の中学校の取組を中心にして、地区の協力を得ながら進めている。

1 地域全体で行う「防災 do プログラム」

保育所・小・中学校・公民館・町内会長・市生涯学習課・消防署の代表者が夕方、公民館に集まり、防災実行委員会を行い、活動内容の趣旨や内容について協議した。今後も持続可能な現実的な防災の在り方を様々な立場から真剣に探っている。

2 全校で取り組む伝統の「川口獅子踊り」

400年前から地域に残る伝統芸能であるが、後継者不足のため20年ほど途絶えていた。しかし、中学校全校生徒が、保存会の方々から踊り・歌・太鼓・笛などを指導してもらい、現在では大舞台で県内外の方々に披露している。

3 農場との連携「ネギプロジェクト」

学校の近くに企業経営をしている大農場の「立花ファーム」がある。学校と理事長とで話し合いを重ね、ネギづくりをもとにした地域興し計画に賛同を得て、農場と連携した中学生による「ネギ祭り」の運営協力。

「なべっこ」(鍋料理を薪を使い野外で作る学校行事)への関係者招待。ネギ-1グランプリ(ネギ料理のコンテスト)等に取り組み、双方向の深いつながりができた。



<中学生による「ネギ祭り」の運営協力の様子>

これらのほかに、修学旅行で「地域PR活動」や「全地域訪問」も行い、生徒と地域との良好な協力関係が軌道に乗っている。

「継続性」についての具体的な取組, 工夫している点など

地域貢献の取組は、活動ごとに連携する組織やネットワークが大きく違っている一方で、地域に住む方々は大きく変わらないことを踏まえ、下川沿地区1200世帯全戸に連絡する一番効率的な方法として、市から出される「大館市広報」に学校からのプリントをはさんで、配布してもらっている。市の広報と学校報は性質が違っており、簡単には実行できなかったが、この方法が軌道に乗り、徐々に地域に学校の様子を伝え、行事や訓練に参加してもらったことで双方向の動きができていく。

平成28年度は、下川沿地区研修会で防災訓練を行った。地震を想定しての訓練で、一旦自分の町内会館に避難し、避難名簿で確認した後、学校の体育館に各町内の住民がそれぞれ避難してきた。総勢800名を超える大規模な訓練になったが、中学生は率先して非常食配りを行った。この活動を振り返り、人数確認や名簿の利用方法などの成果と課題が見られた中、中学生が一番働けること、頼りになることなども分かってきた。年2回学校からの情報配信として続けることが可能であることが確認できた。今後も同様に継続して実践していく。このように、「DSプラン」は次年度へ向け、継続や見直しを効果的に行うため、年度中の活動はその都度、すぐに反省会議を行っている。

「実践性」についての具体的な取組, 工夫している点など

大館市の「ふるさとキャリア教育」は、キャリア教育とふるさと教育を融合した内容で、ふるさとを支える強い気概と能力の育成を目指している。単に体験活動を行うのではなく、中学校や地域にどのような取組が必要なのかを考える集いを毎年設定し、実践、反省会議を行い、毎年改善してきている。その成功例として、5年前までは、中学生が「老人ホーム訪問」を行っていた。しかし、特定の場所で特

定の方々への一方的な訪問となっているという反省から、全校で話し合い、「高齢者宅訪問」を行った。この改善により、より多くの方々とのふれあいが実現できたが、必要感が弱いという課題が指摘された。この反省を受け、学校の近くの家をできる限り全部訪問し、学校の様子を自作パンフレットで伝え、運動会・なべっこ・学校祭・避難訓練など学校にも足を運んでもらえるように改善してきた。この「アボなし地域訪問」活動を続けた結果、下校中の生徒8名が、一人暮らし宅の火事を回避する行動を起こし、表彰を受けるなど、生徒の地域貢献に対する意識、主体性が育ってきている。



<全地域訪問で学校のPRや要望を聞く様子>

あわせて、下川沿中学校では、体験活動や地域貢献活動だけではなく、キャリア教育のねらいを見据え、全教科・領域で「追究型学習」の実践をしている。学習課題を授業で設定する際、教師主導ではなく、生徒から意図的に追究型の学習課題を引き出し、この学習課題を使って、最終的に振り返り(リフレクション)を行う。単に答えを出すのではなく、そこにいたるアプローチを大切にする学習形態は、キャリア教育が目指す能力・資質を引き出すことができている。「教わるからの卒業＝追究型学習」は基礎的・汎用的能力の育成に直結しており、常に学習の本質に迫る実践を心掛けている。本委員会の取組で中学生が活躍できている背景には、中学校におけるこれらの実践が下支えになっている。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

地域全体で行う「防災 do プログラム」の取組は、計画段階、避難する段階、避難所設置段階と段階的に地区全体の方々を巻き込んで、地域との協力、連携体制を構築しながら取り組んできた。その中で中学生が活動を支え、地域の一員としての役割を果たす体験を積んできている。生徒のキャリア形成につながっている。また、「川口獅子踊り」



<生涯学習課の指導による避難所設置の様子>

の継承については、中学校全校生徒での取組が軌道に乗っている。継承者は毎年増えている。この踊りは、学校祭・公民館祭・お盆の催し・きりたんぼ祭りなど県内外の方々へ披露し、その反響も大きい。将来も地域を巻き込み拡大していけるよう継続していく。

一方で、地域連携には、多くの方々の、様々な立場の方々と効率よく活動をしていく課題があり、その解決のために、「より簡単に、分かりやすく、実行しやすく、継続する」という4点が大切であることが明らかになっている。この4点から活動を見直し、学校が中心となって改善、働きかけを行い、今年限りではなく、将来も長く続けていけるよう、実行委員会で繰り返し確認し持続させていく。

学校現場の評価・感想・コメント

・教育関係者(学校、教育委員会等の機関や団体)訪問では、一貫して学習課題が練られていて、全て「〇〇〇のだろうか？」など疑問形の課題が生徒から引き出されている。「まとめ」と「振り返り」がしっかり分離され、押さえるポイントと実生活へのつながりを明確にした学習が進んでいる。

関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

・本実践は、教育雑誌でも紹介され、沖縄、北海道、宮城県、岩手県等からの本校への視察もあった。また本校の噂を聞いた「東光グループ」東北重役の20名ほども視察し、「生徒の受け答えが、うちの社員より素晴らしい。ぜひ採用したい。」とも話されていた。